

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第32号—

令和3年12月6日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

人権集会での「人権について」の話

学校では12月4日（金）から10日（木）の1週間を「人権週間」と定め、様々な取組を行って人権に対する意識を高めています。3日（木）には人権集会を実施し、下記のような校長講話を行いました。

まず、次の問題を読んで考えて下さい。

ある時、お父さんと息子が交通事故にあいました。ひどい事故で、お父さんと息子は、救急車でそれぞれ別の病院に運ばれました。

息子が運ばれた病院では、幸運にも天才外科医との呼び声の高い、その病院の院長が手術をすることになりました。

外科医が、手術室に入り手術台に寝かされた子どもを見るなり、外科医は、とても驚いて、「これは私の息子です」と言いました。

なぜ、その外科医は、その子供をみて自分の息子と言ったのでしょうか？

外科医と息子の関係はどんな関係なのでしょう？

この話を違和感なく読めましたか。話のつじつまが合わないと感じた人はいませんか。その理由として、外科医を男性の医師とイメージしていませんか。実は、外科医は父親ではなく、母親だったのです。わたしたちは、知らず知らずのうちに、男性や女性の職業に対する誤った思いこみ（固定観念）や偏見を心に植えつけてしまうことがあります。例えば、外科医（男？）、看護師（女？）、客室乗務員（女？）、保健の先生（女？）、バスの運転手（男？）、保育園の先生（女？）……です。

思いこみや偏見は、「差別」を生みます。わたしたちは、思いこみや偏見はないだろうかと振り返る機会をもつことが大切です。そして、ものごとを正しく理解する努力が必要です。

今日の午後を実施する『親子人権講演会』『アイマスク体験』では、目の不自由な方のお話を聴いたり、疑似体験をしたりして、目の不自由な方の生活を感じてみましょう。その上で、どんなことを気にしながら過ごすか、目の不自由な方たちが暮らしやすいかを考えてみてください。みんなが幸せになるためには、自分のことだけを考えるだけではいけません。今日は、「世の中のすべての人が幸せになるためには、どうすればよいか。」を考える機会にしましょう。

入賞おめでとう！！ 様々な大会等で津吉っ子の活躍がありましたので、お知らせします。

西日本読書感想画	【最優秀賞】濱道大雅（6年） 【優秀賞】江川 空（3年）・神保瑠彩（3年）
青少年感想文	【優秀賞】日高璃央那（5年）
江迎町武道館剣道大会（各学年個人の部）	【優勝】松口咲徠（5年） 【準優勝】佐々木珀竜（2年）・佐々木貴竜（4年） 【第3位】松山敦志（2年）